

# 「めだか大学通信」 2号

2012・2 岡田京子

今月から、4つのグループで、同じ問題を考え合っていきたいと思います。今回ご紹介したいのは、北田耕也氏の著書、『遙かな戦後教育』中の言葉です。

北田氏は、私と小林千賀子さんの共通の先輩で、教育学の教授だった方です。この本は、戦前戦後を通して圧迫され、ゆがめられてきた教育とそれに抵抗して生きた教師たちのことが「長詩」という形をとってかかれています。普通の論文と違って、誰にも自分のことに重ね合わせてみたくなる、キラキラした美しく鋭い言葉に満ちていて、私はこの一ヶ月ほど釘付けになってしまいました。

私たちが「めだか大学」でやっていることに、大きな重なりがあるように思い、まずは私の解釈でなく、一部分ではありますがここに書かれてあることを読んでほしいと思います。

「いのち」と向き合うすべての大人たちへ

教育は、子どもたち一人ひとりが自らの内に人と世のよりよい未来を孕む文化であった。教育基本法の「改訂」は、そういう「未来」や子どもたちの「文化」に対する政治の侵犯であった。「戦後教育」はその命脈を絶たれた。制度の上でも滅んだも同然である。

しかし、それにもかかわらず、決して滅せぬもののあることをわきまえておきたい。それは子どもたち一人ひとりが持って生まれてきた命の底の「生命記憶」である。

古生物学者・三木成夫は言う。

「生命記憶」とは『人間の意識とは次元を異にした、それは「生命」の深層の出来事なのである。アメーバの裾野にまでひろがる生物の山なみを舞台に、悠久の歳月をかけた進化の流れの中で先祖代々営まれ、子々孫々受け継がれてきた、そのようなものでなければならない』

私なりの受けとめ方で言えば、それは生命史のながい時間を背景に生き抜き生き継いできた命そのものの記憶であり、命の「いのち」命の本姿であろう。

子どもの見せるけなげさは、この「生命記憶」の深みに根ざすものではないか。心の底から発したそのことばが、われわれの日常茶飯のことばとは異なって、どこか詩のような響きを持つのはそのためであろうと思う。（序文より）

（この部分を、まず各グループで話し合ってみましょう）

2月の各グループを振り返ってみますと……。

## つくり小屋 2月12日

また、新しく四曲が生まれました。

### ①細田伸昭さん『富士見橋』

この橋のある街で生まれ育った細田さんが、ここからいつも見ていた富士山、そして人生の節目節目の思い出とつながる橋やその時々 of 富士の姿が三線を伴って歌われるもので、みんな感動してしまいました。「初めて細田さんの情緒に触れた」という感想もありました。

### 稲川恵子さん『じいちゃん』

笠木さんの一作年の講座の時から書き続けていた詩です。『じいちゃん』とは恵子さんのお父さんのことです。八人兄弟の八番目に生まれ自分のやりたいこともやれず、シベリヤに抑留されいったじいちゃんのことです。語り物の感じで、このように家族のことをうたう曲が出来るのはとても大切な気がします。

### ③齊藤枝さん『祈り』

『みんな一緒だからね』に続く「震災」をうたった歌です。津波に流された仙台の叔母さんの家の庭に咲き出した水仙の花、涙が流れ、思わず手を合わせる齊藤さんの姿が見えるようなうたになりました。

### 三宅宗議さん『白鳥』

このところずっと鳥シリーズです。三宅さんの曲はいつもきちんと形が整い出来てくる情景も世界も魅力的なのですが、あえてこの曲をサンプルにして、いろんな表現の仕方をみんなで勉強しました。短歌二つ分くらいの凝縮した世界なので、こういうことができるのです。これからもそうさせてもらっても良いですか。

## うた小屋 2月17日

今日から、笠木講座修了コンサートを目指して歌う練習を始めました。

### ①齊藤枝さんの「大根一本」

これは女声で。生活感を持つ声になればと思います。わらべ歌的なうたなので、方言のアクセントが自分の所と違うので村上さんは歌いにくかったようです。みんなで歌うと、かえってうたいにくくなるのがわらべ唄の特徴なのでおもしろいのですが、そういうことを言う人は関西の人くらいになってしまいました。

### 小関玲子さん『母親のひとりごと』

これも女性ですが、中身が体験的に共感する人たちばかりなので、正直な声

の感じで、思ったよりも安心して歌えそうに思いました。

### ③今井治江さん『心の水の音』

リフレインを男性でやろうと言うことになったのですが、よく考えたらこれは女性の心の音なんですよ。やっぱり女声で歌った方が良いね、と後で今井さんと話しました。さわやかな歌になるでしょう。

というわけで、今日は女性を中心としてやりました。男声が少ないのですが、今月は男性の参加を期待します。

おさらいもしますので、楽譜をいつも持ってきてください。

## すみれ文教場2月19日

曲作りは中村由紀男さんの『未来につづく命』と船岡嘉彦さんの『母さんありがとう』でしたが、他のメンバーも加わって（といっても中村京子さんと村上稔子さんの二人ですが）意見・感想・その他続出し、ほんとうにみんなで寄ってたかっけの曲作りです。まるで自分が作っているような真剣さはこの特徴で、なにごとにも人ごとにしないから、多少そうぞうしくても、全員がしっかり身について確実に一步前に進む、これは良いところだと私は思います。

中村京子さんの『思い出す手』村上さんの『うれしかった』もおさらいをしました。

## にんじん畑 2月27日

メンバーは、上原涼子さん・増田康子さん・桑原正美さんの3人に、これから時々参加できるという吉岡光子さん、のぞきに來られた福島さんという美容師さん(男)という顔ぶれで、しばし私もまとまらない頭になってしまいました。で、読んだばかりなのに新鮮なショックを受けている北田さんの「生命記憶」の話をとにかく長々として...（みんなよくわからなかったようです。今月もう一度やりましょう）それからみんなこれから何がしたいかという話を聞いて、メンバ - 三人の昨年作った自作の曲を歌い、少し落ち着いてきました。

吉岡さんのふるさと(愛媛)の話聞いて...。吉岡さんは介護の仕事をしておられるのですが、その時々を詩にも書かれるし、刺繍にもふるさとの野原や海辺の景色、花々などのすべてを、ごく自然体で描き出していかれる不思議な方でした。福島さんも大変不思議な方で、一つ一つのお話は説得力があるのですが、めざしておられるものが今ひとつわからないので、どのように歓迎していいのかよくわからない、といった具合でした。まあ頑張りましょう。